

1. 略歴

1987年3月	京都大学文学部卒業（文学士）
1989年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）修了（文学修士）
1990年3月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）退学
1990年4月	神戸大学教養部助手
1991年10月	神戸大学教養部講師
1992年10月	神戸大学文学部講師
2000年10月	神戸大学文学部助教授
2000年4月	文部省在外研究員としてドイツベルリン自由大学に留学（2001年2月まで）
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

近代ドイツ語圏文学

b 研究課題

18世紀の文学・思想が研究の中心にある。もともと初期ロマン主義研究から出発し、ノヴァーリスを中心に仕事を進めてきた。とくに超越論哲学・自然科学との関係において初期ロマン主義が展開した独自の表現技法と、その背景にある言語・芸術観が興味を中心にあった。また、その問題意識を継承する20世紀の文学者・思想家の系譜も研究の対象となった。現在は、啓蒙期の文学・思想を、ロマン主義の前史という観点に限定されることなく研究している。また、18世紀以後、ドイツ語圏にあって、自然科学者であり、あるいは自然科学研究から出発しつつ、文学者であった人々―ハラー、リヒテンベルク、ノヴァーリス、アルニムから現代にいたるまで―の営みを〈実験者の文学〉という観点から跡付けるという作業を進めている。

c 概要と自己評価

日本独文学会主催によるドイツ文化ゼミナールの記録を、実行委員長を勤めた2012年と2013年について論集という形で刊行し、4年にわたった仕事が一段落した。また多くの研究者の方々の助力を得て、ドイツ文化に関する啓蒙的著作を編集刊行することができた。「文学と映画」という主題については、ロシアの映画作家タルコフスキーが最後に進めていたプロジェクトである『ホフマニアーナ』の翻訳が刊行されるにあたり、同著の翻訳者である東京外国語大学の前田和泉氏とトークショーで語り合う機会を得た。集中的に再読する中で、小説家ホフマンについてあらためて多くの発見があった。準備中のロマン派論集に組み入れる必要がある。さらにリヒテンベルクの『雑記帳』を独自に編集した注釈付き日本語版の刊行へ向け準備を進めている。

d 主要業績

(1) 著書

編著、Japanische Gesellschaft für Germanistik unter der Leitung von Shinji Miyata (Hrsg.): *Verkörpernte Sprache - Rahmen und Rahmenbrüche*, iudicium, 2015.3

編著、宮田眞治・畠山寛・濱中春（編）、『ドイツ文化55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2015.3

(2) 啓蒙

宮田眞治・前田和泉（東京外国語大学准教授）：トークショー「鏡の二人―タルコフスキーとホフマンをめぐって」、

開催場所 Book café Espace Biblio、開催日時 2015年10月31日 15:30～17:30

宮田眞治、「パレルモの廃墟への未練」『ひろの』（ドイツ語学文学振興会）、第55号、18-19頁

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本シェリング協会、理事、2008,10～